

JAERA

NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- 巻頭言…P1 2021年度 自動車リサイクル士新規講習会のご案内…P1・P2
 第4回 景況調査の結果について…P3・P4・P5 第1回 ブロック長会議の結果…P5
 各ブロック会議の開催結果 [東北/近畿/中部/北陸/九州ブロック]…P6
 2021年度 駆動用HVバッテリー・セレナC26ジェネレーター共同出荷事業
 /6月新車販売・使用済自動車発生台数…P7
 鉄スクラップ最新情報…P8 行事予定・お知らせ/編集後記…P9

vol. **149**

2021年度 自動車リサイクル士新規講習会のご案内

01

自動車リサイクル士新規講習会の申込みが開始!

対象者	自動車リサイクル士の資格をお持ちでない方
資格種類	全工程*
実施方法	【講習】WEB上で講習動画を視聴
	【修了試験】会場で受験 (十分なコロナ対策を実施いたします。)
受講料	会員：25,000円 非会員：35,000円
申込締切	2021年9月6日(月) 必着

※今年度は“引取・フロン工程”は実施しません。

2021年度の自動車リサイクル士新規講習会は、WEBを活用した方式で開催することとなりました!

具体的には、パソコンやiPad等のタブレット機器、スマートフォンなどで講習の動画をご視聴いただいた後、最寄りの試験会場で修了試験を受けていただく流れとなります。

講習の動画は、配信期間内であればいつでも視聴が可能で、途中で停止したり、繰返して観ることも出来るため、お仕事の時間を犠牲にすることなく、ちょっとした空き時間にご覧いただけます。



(次のページへ)

巻頭言

先日、九州都市開発・建設総合展・災害リスク対策推進展がマリンメッセ福岡の会場で開催され、展示と講演を聞きに行きました。展示では熱中症対策や腰を痛めない器具等あり、コロナ感染症対策を行いながらの見学でした。オンライン展示や見学も良いですが、現場で見ることが出来て良かったと改めて思いました。

講演では、自動車メーカーによるハイブリッド車を活用した動く電源(RE-Q)の講演を聞きました。中古車に後付けすることで、車が発電機に早変わりし、簡単に多くの電気が取れ、1度の給油で1日から3日間も使用出来るという内容でした。

昨年、南九州でも大雨災害もありましたが、自社にある地下タンクの燃料を生かして冷暖房やパソコン・スマホも充電出来ますので、もしもの時に備えてBCP対策を行います。

〈広報部会 伊地知 志郎〉

《編集・発行責任者》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
広報部会長 永田 則男

《お問い合わせ先》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
〒105-0004

東京都港区新橋3丁目2番2号

TEL: 03-3519-5181

FAX: 03-3597-5171

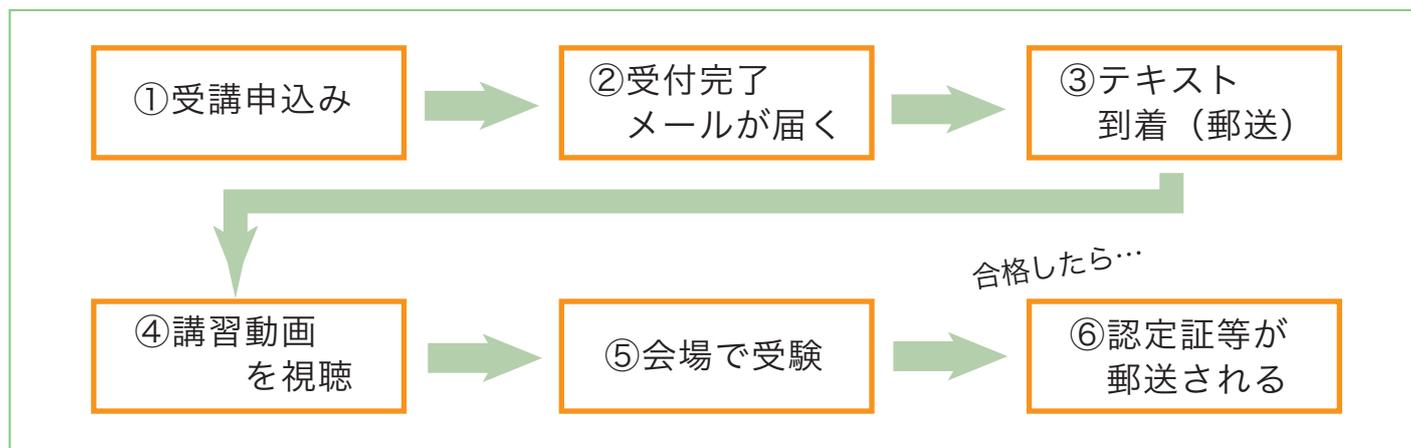
MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp

H P: http://www.elv.or.jp/

2021 年度 自動車リサイクル士新規講習会のご案内

01

■受講までの流れ



※テキストは動画配信の約 1 週間前 (9/27) を目途に送付します。

■動画配信期間

2021 年 10 月 4 日 (月)～12 月 15 日 (水) まで
(修了試験日まで各自で視聴する形となります。)

■受験会場 (全国 8 会場)

札幌会場 (定員 40 名)	2021 年 11 月 5 日 (金) 14:00～15:00	名古屋会場 (定員 30 名)	2021 年 11 月 24 日 (水) 14:00～15:00
	札幌市教育文化会館		名古屋企業福祉会館
仙台会場 (定員 40 名)	2021 年 11 月 12 日 (金) 14:00～15:00	大阪会場 (定員 30 名)	2021 年 11 月 25 日 (木) 14:00～15:00
	エスポールみやぎ		大阪市立住之江会館
東京会場 (定員 100 名)	A 2021 年 11 月 19 日 (金) 11:00～12:00	岡山会場 (定員 40 名)	2021 年 11 月 26 日 (金) 14:00～15:00
			岡山市勤労者福祉センター
	B 2021 年 11 月 19 日 (金) 15:00～16:00	福岡会場 (定員 40 名)	2021 年 12 月 3 日 (金) 14:00～15:00
			福岡県立ももち文化センター
同上	同上	沖縄会場 (定員 20 名)	2021 年 12 月 10 日 (金) 14:00～15:00
			いちゅい具志川じんぶん館

※東京会場のみ A と B の 2 部入れ替え制となります。

※全ての会場で十分なコロナ対策を実施します。

■講習会の詳細、お申込についてはこちらをご覧ください↓

<https://www.elv.or.jp/35-87-0.html> 2021年度講習会関連情報(新規講習会)をご覧ください。

< お問い合わせ先 >

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 事務局 (担当 : 京野)

■TEL:03-3519-5181 ■FAX:03-3597-5171 ■mail:jaera-homepage@elv.or.jp

一般社団法人 日本自動車リサイクル機構 第4回 景況調査報告 2021年4～6月期(概要版)

前年同期比で経常利益かなり改善も 仕入価格上昇で次期は厳しいか

【調査要領】

- ①調査時：2021年6月16日～6月30日
 - ②対象企業：日本自動車リサイクル機構会員企業
 - ③調査の方法：FAX・Webの送受信による自計記入を求めた
 - ④回答企業数：469社のうち141社(30.0%)から回答を得た(うち、有効回答数140)
 - ⑤平均従業員数：役員を含む正規従業員数28.3人(前回26.2人)
派遣社員・臨時・パート・アルバイトの数7.0人(前回5.9人)
- ※DI値(DI: Diffusion Index)「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引いたもの

経済・経営環境が変化するなかで、本調査結果が企業経営の羅針盤となればと考える。今後も、ご回答への協力を頂ければ幸いです。なお、本文中の「△」はマイナスを意味する。

■事務局より

次回、2021年7～9月期の調査につきましては、2021年9月16日(木)から9月30日(木)で予定しております。皆様、引き続きご協力の程お願いいたします。

また、今回の調査結果の詳細については、以下の「第4回景況調査報告2021年4～6月期報告書」をご参照ください。

報告書版はこちら→ https://www.elv.or.jp/media/20/20210720-keikyo4_202107.pdf

(1) 概況(業況判断・売上高・経常利益・資金繰り)

2021年4～6月期の、業況判断、売上高、経常利益、および資金繰りについて、前年同期(2020年4～6月比)との比較が図1から図4である。回答者が「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引いたDI値は、業況判断が27.9(前回17.3)、売上高が43.6(前回25.2)、経常利益が47.1(前回29.1)、および資金繰りが22.9(前回18.9)であった。

図1 前年同期(20年4-6月)比 業況判断：DI値27.9

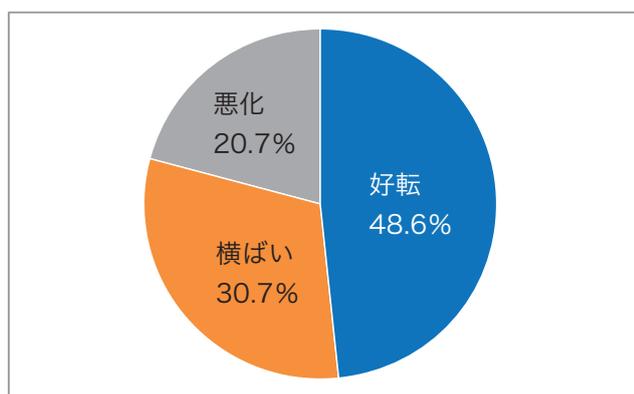


図2 前年同期(20年4-6月)比 売上高：DI値43.6

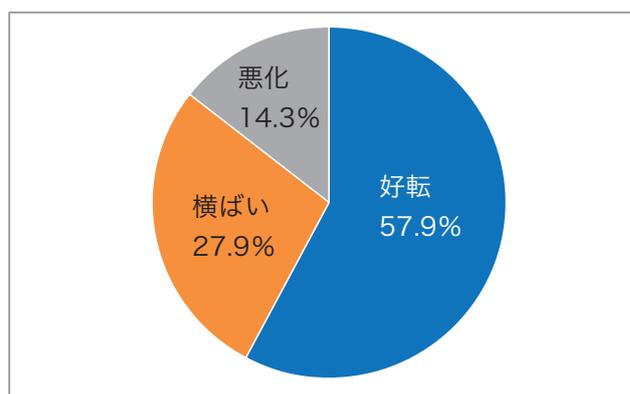


図3 前年同期(20年4-6月)比 経常利益：DI値 47.1

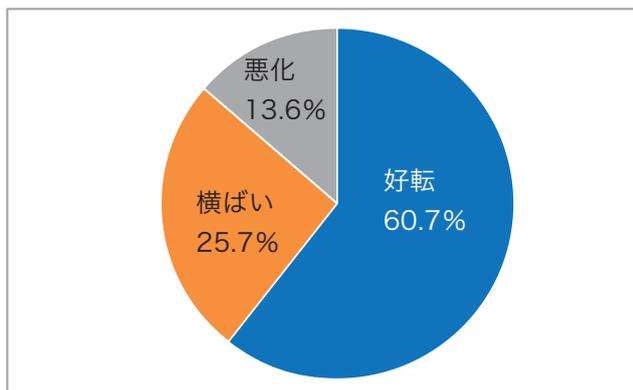
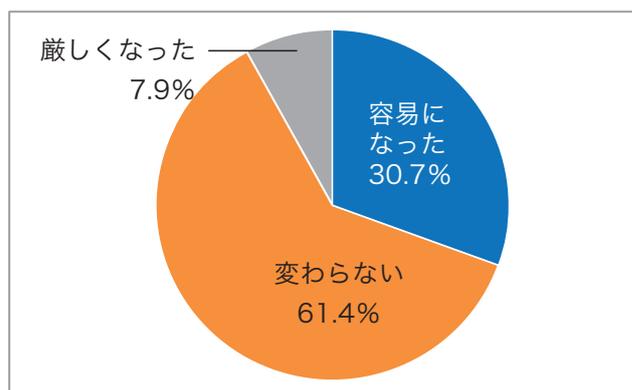


図4 前年同期(20年4-6月)比 資金繰り：DI値 22.9



(2) 金融機関の姿勢変化の有無と内容

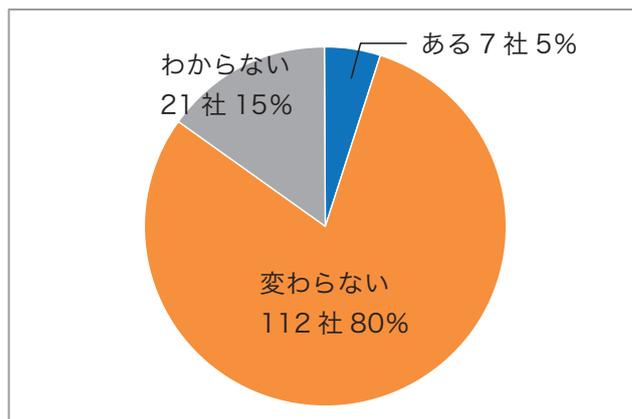
2021年4～6月期の金融機関の姿勢変化の有無について、「ある」が7社・5%(前回11社・9%)であり、「変わらない」が112社・80%(前回93社・73%)であった(図5参照)。

さらに、姿勢変化の具体的な内容を複数回答可で質問したところ、貸付攻勢が5社(前回調査10社)、私募債の勧誘が1社(前回ゼロ)、新たな貸し渋りが1社(前回ゼロ)、経営指針(経営理念)の重視が1社(前回2社)であった(表2参照)。

表1 金融機関の姿勢変化の内容(複数回答可)

貸付攻勢	5社
私募債の勧誘	1社
新たな貸し渋り	1社
経営指針(経営理念)を重視するようになった	1社

図5 金融機関の姿勢変化

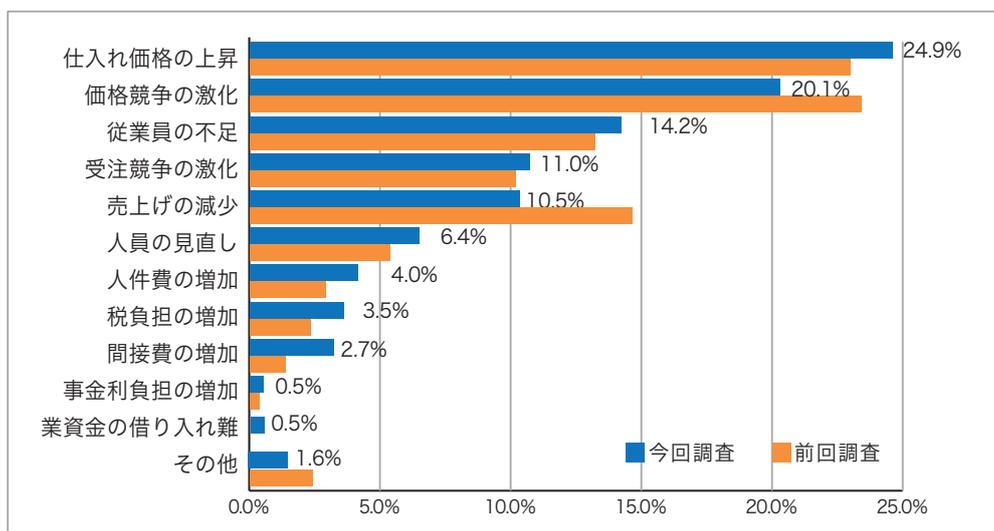


(3) 経営課題と取り組み等

① 経営課題

2021年4～6月期において、経営上の課題として深刻なものは、仕入れ価格の上昇(93社・24%)、価格競争の激化(75社・20%)、従業員の不足(53社・14%)が上位であった(図6参照)。

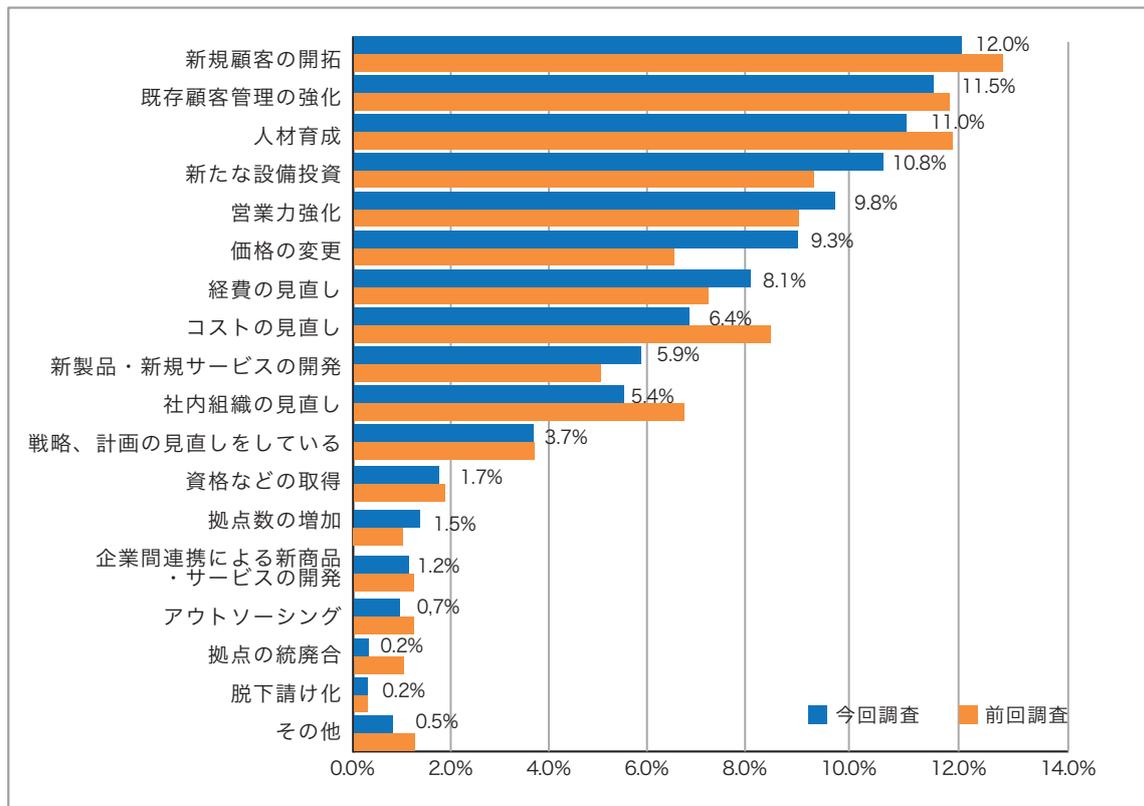
図6 経営上の課題(上位3つまでの複数回答)



②現在の取り組み

2021年4～6月期において「現在取り組んでいること」は、上位から、新規顧客の開拓(49社・12%)、既存顧客管理の強化(47社・11%)、人材育成(45社・11%)であった(図7参照)。

図7 現在取り組んでいること(上位3つまでの複数回答)



第1回 ブロック長会議の結果

03

6月29日に開催された2021年度第1回ブロック長会議では、前回に引き続き、各地の会員の皆様からオブザーバーとして11名の方々にご参加いただき、計25名でのWEB会議となりました。前回の会議にオブザーバーとしてご参加いただいた皆様からも「機構からの報告事項がダイレクトに伝わるため、とても理解がしやすい」と大変好評であり、次回以降も引き続きオブザーバーでのご参加を募る予定です。

会議では、①酒井代表理事より「自動車リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書(案)」の説明と報告、②機構本部の活動報告、③各ブロックの今年度の活動計画の3点が議題となりました。

③について、一部をご紹介しますと、

■北海道ブロック

「PMMA(アクリル樹脂)の水平リサイクル実証実験をHonda、三菱ケミカル(株)と共同で実施」等

■東北ブロック

「線量の高い車や部品等の全体像を調査」、「一般ユーザーへのアプローチ方法の検討」等

■中部・北陸ブロック

「素材について共同回収の取り組みの計画」等

上記の内容を含め今年度の活動計画の報告がありました。

また、九州・沖縄ブロックからは、タイヤチップの受け入れ先がなくなってきている影響で、廃タイヤの処理が深刻になっているとの問題提起がありました。この、廃タイヤ処理問題については、今後情報を収集しつつ、機構として問題意識を持って取り組むこととなりました。

東北ブロック会議

7月2日に会場とWEB会議を併用して開催されました。機構本部からは酒井代表理事が出席しました。

前頁のブロック長会議でもあった「廃タイヤの処理問題」について、「9月から処理料金が値上げされる」、「現時点で回収は問題ないが、回収後の引き渡し先が逼迫している」、「製紙会社が減産となった影響があるかもしれない」、「中古タイヤの業者のヤードにタイヤが山積みとなっている」、「値上げもなく問題ない」など、東北内では地域によってバラつきがあることが分かりました。

また、半導体不足でカーナビ・ドライブレコーダー・ETC等が手に入りやすく、新車の納車時期が伸びてきているなど深刻な状況と問題意識をブロック内で共有することが出来ました。

近畿ブロック会議

7月8日にWEB会議での開催となりました。また、機構本部からは酒井代表理事、木内副代表理事が出席しました。

各支部の近況報告では、在庫台数が少なく、中古車価格、素材価格の高騰から、価格競争の激化を更に肌で感じるようになったといった報告が多くありました。そのため、仕入れに苦戦している状況が続くなかで、営業社員を増強しつつ、営業範囲などを見直すなど「営業力の強化」に注力しているとの報告もありました。

また、引き取った車両の中に多くのゴミや必要以上の数の廃タイヤが混入していた事例があり、そのような場合は引取を拒否するように徹底しているとの情報提供がありました。

中部・北陸ブロック会議

7月14日に会場での開催となり、機構本部から酒井代表理事、木内副代表理事が出席しました。

今回の会議では、「エアバッグ袋の再利用」が大きな目玉となりました。使用済自動車から回収できるエアバッグの袋を回収し、それを違った用途の物に生まれ変わらせて再利用をすることで、より資源を有効活用することが可能となりますが、それらを“魅力ある事業としつつ、より持続的に取り組んでいける方法”について検討が重ねられました。SDGsやカーボンニュートラルが叫ばれている中で、「自動車解体業に携わりながら、何が出来るか」という皆様のとても熱い思いを感じる事が出来ました。まだ構想段階ではありますが、決定次第、皆様に詳細をご紹介します。

九州ブロック会議

7月17日に会場とWEB会議を併用しての開催となり、機構本部から、木内副代表理事が出席し、更に近隣ブロックとの情報交換を目的として、松田沖縄ブロック長も出席となりました。

会議の中で多かったのが、やはり「廃タイヤの処理問題」であり、地域によって違いはあれど、処理料金の高騰が続き、全ての方が問題意識を強く持たれていました。

また、各支部から在庫状況や価格相場などの状況について、報告と情報交換を行い、地域によってバラつきがあること、仕入れ競争が激化してきていることについて九州ブロックの状況を共有することが出来ました。



【九州ブロック会議の様子】

2021年度駆動用HVバッテリー・セレナC26 ジェネレーター共同出荷事業 6月出荷状況と上期累計

05

【2021年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業 6月出荷状況と上期累計】

上段:6月出荷数 下段:上期累計【単位:個】

参加会社数(社)	プリウス 20	プリウス 30	プリウスα	レクサス CT200H	アクア / ヴィッツ	カローラアクシオ / フィルダ	レクサス GS450H	クラウン HV GWS204
21	43	64	0	0	41	0	0	2
41	105	220	2	0	138	1	0	2
クラウン HV AWS210	SAI/レクサス HS250H	カムリ HV	日産デュトロ / ブルーリボン	ノア/ヴィクシー / エスファイア	シエンタ HV	プリウス 50	不良品 A-C	合計
1	0	0	0	0	0	0	6	157
3	2	3	0	0	0	1	13	490

□2020年度の結果・2021年度事業説明資料はこちら→ <http://elv.or.jp/index.php?itemid=1740>

【2021年度 セレナC26 ジェネレーター共同出荷事業 6月出荷状況と上期累計】

上段 6月出荷数 下段:上期累計【単位:個】

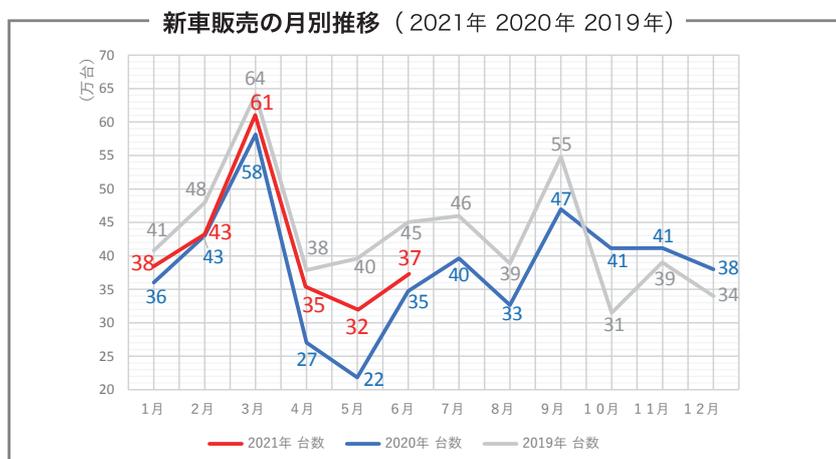
参加会社数(社)	北海道ブロック	東北ブロック	関東ブロック	中部・北陸ブロック	近畿ブロック	中国・四国ブロック	九州ブロック	沖縄ブロック	合計
11	387	103	5	3	0	2	4	0	504
20	930	239	8	3	1	3	10	0	1,194

※6月末をもって予定数に達したため、事業としての共同出荷は終了しました。引き続き、リビルドコアとしての買取は行っておりますので、買取をご希望の場合は、アーネスト（TEL：048-981-6384、担当：川崎様・加藤様）までお問い合わせください。

6月新車販売・使用済自動車発生台数

06

■ 2021年6月度 新車販売台数 365,631台 前年同月比 105.3%

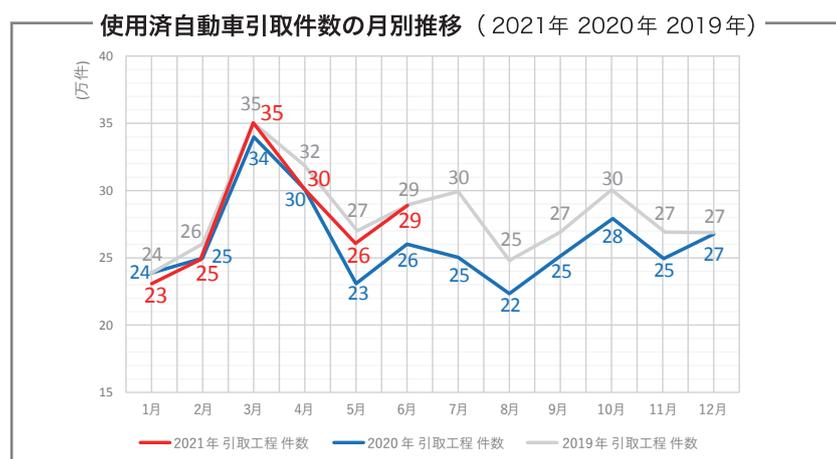


過去の新車販売台数推移

年累計	台数	前年比(%)
2021年 (6月まで)	2,464,586	111.6
2020年	4,598,615	88.5
2019年	5,195,216	98.5
2018年	5,272,067	100.7
2017年	5,234,165	105.3

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■ 2021年6月度 使用済自動車引取 (電子マニフェスト) 実施状況



引取件数
288,547 件 (前年同月比 110.9%)
フロン回収工程
257,795 件 (前年同月比 109.5%)
解体工程
302,099 件 (前年同月比 110.1%)

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

7月第3週（16日）の鉄スクラップ動向



7月16日の国内スクラップ炉前実勢価格（中心値）

		H2	気配
関東	北関東	49,000～50,000	様子見
	南関東	49,000～50,000	様子見
	浜値	46,500～47,000	軟調
名古屋		50,000～51,000	様子見
関西	大阪	50,500～52,000	強含み
	姫路	50,500～51,000	強含み

国内市場 一部調整下げも概ね様子見商状

国内市場の鉄スクラップ市況は、7月9日前後の週末に東海、九州・山口市場で調整下げ、関東市場でH2浜値が続落する動きが見られたが、他に目立った値動きは見られず概ね様子見商状で推移している。主要市場のH2相場は5万円台を維持したまま7月中旬を迎えている。

国内粗鋼生産量が回復を続けていることに加え、高炉筋の市中スクラップ手当てが継続されており、国内の鉄スクラップ需要は増加傾向にある。電炉筋が夏季減産期に入り集中炉休の計画が近づいているが、現時点では需要動向に大きな変化はなく、コロナ禍による減産となった前年同月に比べて需要量は大幅な増加を示している。一方で市中スクラップの発生は薄く、7～8月は「夏枯れ」の懸念もあり、国内需要家筋は引き合いを緩められない環境に置かれているのが現状だ。

また、半導体不足などによる製造業の減産が新断などの加工スクラップの発生低迷を招いている。高炉筋や中国筋の需要増を受けて、HSや新断など上級スクラップ相場は引き続き堅調だ。上級スクラップや加工スクラップの堅調な動きが、鉄スクラップ相場全体を支えている。

【関東地区】 H2 浜値先行安も電炉筋は慎重姿勢

関東市場の鉄スクラップ市況は、H2浜値が軟調な一方、電炉買値は様子見商状、上級スクラップは堅調な推移と、それぞれ異なる動きを見せている。電炉筋、高炉筋、湾岸商社・シッパー筋、海外需要家筋の対応に違いがあり、それが鉄スクラップ相場に影響する状況が続いている。7月16日時点のH2炉前実勢価格は49,000～50,000円中心。その一方でH2浜値は船送り数量の減少や輸出不振で46,500～47,000円まで下げ進んでいる。

【東海地区】 メーカー3社が7月16日から新断を3,000円方の先行上げへ

東海地区の鉄スクラップ市況は品薄感から新断類が強基調。3社が7月16日から新断のみ3,000円の値上げ改定を実施した。新断類は韓国向け輸出価格の上昇を受けて、7月入り後も湾岸集荷価格はジリ高で推移しており6万円台が定着。湾岸との格差拡大によって電炉入荷も停滞し、湾岸筋への流出を防ぐ意味からも使用比率の高い特殊鋼メーカーを中心に値上げに踏み切った。7月16日時点のH2炉前実勢価格は50,000～51,000円中心。

【関西地区】 入荷不安解消せず市況はジリ高推移

大阪地区の鉄スクラップ市況は依然として強含み。7月末から複数で夏季炉休入りを控えるものの、入荷不安の残るところでは水面下含めて価格対応を行っている。域内では「電炉需要は若干バラ付いている。4連休終了後は品種によって外部環境の影響を受けることも考えられる」(商社)といった声が聞かれる。7月16日時点のH2炉前実勢価格は、大阪地区が50,500～52,000円中心。姫路地区が50,500～51,000円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、7月16日午前時点のもの)

行事予定

— 8月の主な行事予定 —

August

- 8月5日 (木)
 - ・ 第5回 広報部会
- 8月18日 (水)
 - ・ J-FAR (事例集) 定例会

～8月12日(木)～8月16日(月)事務局はお休みとなります～

※急遽、日程の変更・延期の場合がございます。

お知らせ

自動車再資源化協力機構より ～ボンベの『可溶栓』を再確認ください!!～

フロンボンベは、40℃以下に保つことが法律上規定されています。「可溶栓」にふくらみが見られる場合には内部圧力が上昇し、フロン類の漏れや可溶栓飛び出しによる事故の原因となるため注意が必要です。

特に6月から9月の夏季はボンベの使用・保管環境も高温となり、可溶栓が溶けることによるフロン漏れが増える時期のため、改めて以下をご確認頂き適正なボンベ管理をお願いいたします。

本件の詳細については、以下のリンク先をご参照ください。

→ http://www.jarp.org/pdfs/information/20210625_fr.pdf (自再協 HP 内)

編集後記

この7月、大雨によって静岡県熱海市伊豆山で発生した土砂災害は地域に大変な被害をもたらしました。被災された皆さまには心よりお見舞い申し上げます次第です。

近年は毎年のように大規模な自然災害が日本の各地で起きています。しかも災害の規模が昔に比べて大きくなっているのが気になります。このようなかつてない自然災害、天候異変の元凶ともいわれている温室効果ガスを削減するために、各方面でいわゆる持続可能な社会に向けた取り組みが行われているのは周知の通りです。

自動車業界ではカーボンニュートラル達成時期に絡めるように、世界各国の自動車メーカーはガソリン車の新車販売禁止といった、これまで考えられなかった施策が打ち出されています。まちがいなく自動車は化石燃料から電気や燃料電池に取って代わることになるのでしょうか。まさしく大変革。「電気自動車になれば触媒も付いていないし」といった短絡的な考え方は捨て、如何に環境に対する適応の仕方をそろそろ真剣に考えないと業界自体の持続可能が危ぶまれる、そんな時代の変化を感じてなりません。

(広報部会長 永田 則男)